

公益財団法人慈愛会と垂水市の包括連携協定のもと、今村総合病院の医師の皆様にご協力いただき、市民の皆様の健康増進及び子育て支援啓発を目的に、4カ月に1回、皆様にお伝えしたい情報をコラム掲載いたします。

家庭でできるケガ・事故の予防

新 型コロナウイルス感染症流行に伴い、休園・休校や自宅療養などの影響で子どもたちが家庭で過ごす時間が長くなっているのではないのでしょうか。家庭内でのケガや事故の予防のためには、家庭内に潜む危険を事前に把握して対策を行うことが大切です。

① 「溺れる事故」について

1歳前後の溺水の原因場所は浴槽が最多です。わずか10cmの深さの水でも溺れる可能性があり、ほんの少しの間でも目を離すことは危険です。

浴室に関しては「1人にしない・1人で扉を開けられない工夫・浴槽の水を抜く」を守りましょう。また、保護者が髪を洗うときには子どもは浴槽から出しましょう。

② 「やけど」について

炊飯器の蒸気、電気ケトルの転倒、グリル付きコンロ、カップに入った飲み物、加湿器やストーブなどの暖房器具など様々な原因があります。いずれも大人にとって身近なものですが、子どもたちにとってはやけどの危険が潜んでいます。

やけどの予防のために台所などのベビーゲート設置、チャイルドロック機能のある製品の使用をお勧めします。また、電気コードに引っ掛かることもあるので、本体とコードが着脱式の製品を選ぶ、電気コードをまとめるなどの配慮を行いましょう。

やけどをしたときは、初期の対応が大切です。すぐに10分以上冷やしましょう。服の上から熱湯などがかった場合は、脱がせずに服の上から冷やしてください。やけどの範囲が片足、片腕以上の広範囲、顔面などの場合は救急車を呼ぶか至急病院を受診してください。

③ 「転倒・転落」について

家庭内の危険な場所として、ベッド・ソファ・ベランダ・窓などが挙げられます。

子どもたちは寝ている間も動き回るので、ベッドから転落する危険があります。ベッドは安全な柵のあるものを使用し、ソファで寝かせないようにしましょう。

階段は転落防止の柵を付け、子どもだけでベランダに出ないように注意し、植木鉢など踏み台になるものを置かないようにしましょう。同様に、窓の近くにもベッドやソファなど踏み台になるものは置かないようにしましょう。

もし頭部打撲をしてしまった場合、こぶができた程度なら安静にして冷たいタオルなどで冷やします。意識がおかしい、顔色が悪く元気がない、繰り返し嘔吐するなどの場合は至急病院を受診しましょう。

ご家庭での対策はいかがでしょうか。ご自身の家庭内に危険は潜んでいないか、できる対策がないか確認し、子どもたちを身近な危険から守りましょう。

今村総合病院小児科医
みなこ
徳永 美菜子

鹿児島大学出身。小児内分泌を専門としています。こどもたちの笑顔や成長を見守ることができるのが小児科医の魅力だと感じています。診療を通じて、保護者の方の不安や悩み事の軽減やこどもたちの成長をサポートしていきたいです。



問 保健課健康増進・元気プロジェクト係 ☎ 内線 138